

アグリ筑西

2020 9月号



まだまだ暑い日が続いています。
体調に気を付けて作業しましょう。

発行 県西農林事務所 経営・普及部門
(筑西地域農業改良普及センター)
Tel : 0296(24)9206
Fax : 0296(24)6979



筑西地域農業改良普及センターHPへアクセス！→



実直に「種づくり」に向き合う生産者 ～ほ場審査より～



JA北つくば明野採種部会は7月21日(火)と30日(木)の2日間、部会員7名が栽培する「コシヒカリ」の採種ほ場25筆、11.2haについて、種子条例に基づき1回目のほ場審査が行われ、異品種が混じっていないか、病虫害は発生していないかなど、適切な栽培管理がなされているか審査を受けました。

部会員は、これまで優良な種子生産に向け細心の注意を払って栽培しており、特に種子によって伝染する「籾枯細菌病」の防除や、購入者からクレームになりやすい「稲こうじ病」の防除をするなど、通常栽培よりも病虫害防除をしっかりと行っています。

厳密、厳格なほ場審査を受けた部会員は、更なる品質向上に向けて、互いに意見を交換し、意識を新たにしていました。



今後は、2回目のほ場審査を受け、さらに発芽率が90%以上であること等を確認する生産物審査を受け、合格したものだけが令和3年採種用の種子として流通することになります。

普及センターでは、地域農業を支える担い手の確保・育成に向けて 新規就農者(雇用就農者含む)を支援しています！

【知識・技術の習得】



普及センターでは、農業に関する基礎的な知識や地元の先進農家から技術・経営を学ぶ農業学園を開催しています。また、県全域を対象として専門的な技術・知識を学ぶ「いばらき農業アカデミー」が開催されています。

【各種制度の活用(補助事業、制度資金)】

関係機関と連携し、就農形態に合わせた事業等(農業次世代人材投資資金、強い農業・担い手づくり総合支援交付金、青年等就農資金、農の雇用事業など)を紹介しています。

※就農・雇用状況により活用できない場合があります。詳細はお問合せください。

また、ご家族や、近隣で

- ・農業を新たに始めた(または今後始める予定)
- ・新たに従業員(パートを除く)を雇用した(または今後雇用予定)

方がいる場合には、普及センター(電話:0296-24-9206)までお教えください。資料等をもって伺います。



⚠️ 農作業事故に注意しましょう ⚠️

- 農作業による死亡事故が増えています
- 高齢者による事故、機械操作に伴う事故が多くなっています
- 事故防止には、一人一人が高い安全意識を持って作業を行うことが重要です
 - ・安全装備等、一定基準を満たしていることを農研機構(国立研究開発法人農業・食料生産技術総合研究機構)が確認した農業機械には、このようなシールが貼られていますので、機械導入の際の目安としてください→
 - ・農業機械の管理・利用は、適切に行いましょう
機械自体の安全性が優れていても、日ごろの管理が不十分では故障が発生して事故を招いたり安全装置が機能しないこともあります。また、安全装置を適切に使用しなければ効果はありません。



- ・安全な農作業に必要な知識・作業を習得しましょう
- ・高齢者の方は、自ら心身機能の衰えを十分に意識して、農作業に取り組みましょう
- 万が一に備えて、労災に加入しましょう
 - ・労災保険は、自営農業者であっても、一定の要件を満たしていれば加入できる特別加入制度があります。万が一の場合でも経営を維持し、家族の生活を守るため活用ください。詳細は、お近くの農協や労働基準監督署等にお問い合わせください。
 - ※なお、法人経営において、労働者を雇用する場合には、使用者の責任において労働者を労災保険に加入させることが義務づけられています。

農業安全対策の留意点を詳細に解説した「農作業安全のための指針」や事故防止の取組事例等の農作業安全に関する情報が、農林水産省のHPでご覧いただけます。
HP→www.maff.go.jp/soshiki/seisan/shizai/nousagyouannzenn16.10.20.html
参考: 農作業安全啓発パンフレット

☀️ 熱中症対策をしましょう ☀️

農業従事者の中には、熱中症の具体的な症状が分からず自ら認識しないうちに熱中症にかかっている方が多くいます。熱中症予防の取り組みをお願い致します。

夏の農作業で心がけること

1. 日中の気温の高い時間帯を外して作業を行いましょう
 - ・特に70歳以上の方は、のどの渇きや気温の上昇を感じづらくなるので、高温時の作業は極力避けましょう
2. 作業前・作業中の水分補給、こまめな休憩をとりましょう
 - ・のどが乾いていなくても20分おきに休憩し、毎回コップ1~2杯以上を目安に水分補給しましょう
 - ・足がつったり、筋肉がピクピクする症状がみられたら、0.1~0.2%程度の食塩水(1Lの水に1~2gの食塩)、スポーツ飲料、塩分補給用タブレットを摂取しましょう
 - ※市販品を摂取する際は、必ず成分表示をチェックし、適切な量を摂取してください。
 - ・休憩時は、日陰等の涼しい場所で休憩し、作業着を脱ぎ、手足を露出して体温を下げましょう
3. 単独作業を避けましょう
 - ・作業は2人以上で行うか、時間を決めて水分・塩分補給の声かけを行うなど、定期的に異常がないか確認し合うようにしましょう
4. 高温多湿の環境を避けましょう
 - ・暑さ指数(WBGT)計、温度計、湿度計で、作業環境を確認しましょう
 - ・作業場所には、日よけを設ける等できるだけ日陰で作業をするようにしましょう
 - ・特にビニールハウス等の施設内は風通しが悪く、早い時期、早い時間から暑さ指数(WBGT)が高くなるため、風通しを良くしたり断熱材を活用しましょう



参照: 農林水産省 農作業中の熱中症対策について

普及員のひとりごと ~谷口 信之~

今年4月の異動で、18年ぶりに普及に戻ってきて、充実した日々を公私ともに過ごそうと思っていましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のための自粛により、味気ない日々を過ごしていました。これからは「この環境だからこそできること」を探しつつ、自分を守る「うつらない」、相手を思いやる「うつさない」この気持ちを忘れずに活動しようと思います。